



地球大学アドバンス 第24回 [2009年度:第8回]

真の"ポスト京都"への課題 ——日本は地球を変えるリーダーとなれるか?

2009.11.16 mon

「90年比マイナス25%」という日本の中期目標に関する鳩山宣言は、京都議定書を離脱していたアメリカの戦線復帰とともに、今年12月のCOP15での合意形成にむけた大きな弾みとなるでしょう。しかし、これらはあくまで今世紀半ばまでに世界の炭素排出量を「半減」という地球のグランドデザインにむけた一経過点にすぎません。

そして、この目標達成に不可欠とされる「先進国マイナス80%」という基準は、私たちの常識と暮らしの根源的なリセット、化石燃料に依存した20世紀型インフラの抜本的な再構築を意味します。自然エネルギーや省エネ技術の導入といった要素論を超えた、トータルな社会のリデザイン——。それは自動車や航空機に依存しない交通網と物流サプライチェーン、社会のエネルギー需給をリアルタイムに相互調整する"電力神経系"の構築、そして地球人口の半分以上が暮らす都市のコンパクト化と食糧自給(フードマイル低減)にまで及ぶ包括的な課題です。

また先進国の率先垂範と相まって、途上国をどう巻き込むかがCOP15の重要課題となっています。確かに30億近い人口が怒涛のようにエネルギー多消費社会へと邁進する中国・インドなど、それ自体がグローバル・ガバナンスの新たな脅威でしょう。しかし一方、天津エコシティ構想など先進国以上のスピードで"グリーン化する中国"という側面も見られ、先進環境都市の視察に世界中の人が中国や途上国を訪れるといった様変わりした風景が近未来に出現しないとも限りません。そうしたさまざまな意味で激変する地球の「新しい現実」のなかで、日本はどう生きていくのでしょうか？

今回は世界の環境政策やエネルギーの動向に精通し、時代を先取りした政策提言者としてCOP15にも参加される環境エネルギー政策研究所長・飯田哲也氏と、このあたりをじっくり議論してみたいと思います。

[topics]

- 急速にバージョンアップする世界の環境エネルギー政策～その最新動向
- 欧州のトップランナーと世界のグリーン・ニューディール～アメリカ、中国、中東・・・COP15の注目ポイント、日本のとるべき環境外交戦略
- 日本の"ポスト京都"課題の核心はどこに？

開催概要

日時:2009年11月16日(月) 18:30~21:00
 ゲスト:飯田哲也氏(NPO法人 環境エネルギー政策研究所 所長)
 企画・司会:竹村 真一 氏
 Earth Literacy Program 代表
 エコツェリア・コンテンツプロデューサー
 会場:新丸ビル10階「エコツェリア」
 地図:<http://ecozeria.jp/access.html>

定員:50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)
 参加方法:事前登録が必要です 事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>
 参加費:エコツェリア会員企業に所属の方:無料
 *名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。
 エコツェリア会員企業非所属の方:有料2,000円
 *新型インフルエンザの発生状況により、急遽イベントを中止することがございます。
 状況に応じて、参加申し込みの方には、お知らせいたします。

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/21:00 閉会